

# 三浦市胃がんリスク検診についてのご案内

2023年度より、**胃がんリスク検診**は、**生涯1人1回まで**の受診になります。

まずは、胃がんリスク検診を受けて、自身の胃がんリスクを確認しましょう。  
以降は、自身の胃がんリスクに合わせて、胃がん検診を定期的に受けましょう。

Q 胃がんリスク検診は、1回受けるだけで良いのか？

**A 胃がんリスク検診は、生涯に一度の受診でOKです。**

胃がんの原因になるピロリ菌は、胃酸の分泌や胃粘膜の免疫能の働きが不十分な幼少期までに感染すると考えられており、大人になってから感染することはほとんどないため、何度も受診する必要はありません。

Q 胃がんリスク検診の受診要件が満たされず、受けることができません。

**A かかりつけ医師と相談して、ご自身に合った胃がん検診の方法を確認しましょう。**

過去に胃がんリスク検診を受けたことはないが、①胃の手術を受けたことがある、②過去にピロリ菌除菌療法を受けたことがある、③現在胃の薬(プロトンポンプ阻害薬)を飲んでいる、④腎不全である、以上4つの要件いずれかに該当する方は、胃がんリスク検診において正しい検査結果が出ないため受診できません。ご自身の体調に合った胃がん検診の方法をかかりつけ医師と相談しましょう。

Q 胃がんリスク検診を受けたが、今後どのように胃がん検診を受けたら良いのか？

**A 胃がんリスク検診の結果によって、以降の胃がん検診の方法が異なります。**

胃がんリスク評価	A判定	B判定	C判定	D判定
胃の状態	ピロリ菌感染がなく、胃の萎縮がない	ピロリ菌感染があるが、胃の萎縮がない	ピロリ菌感染があり、胃粘膜が炎症を起こし少しずつ胃の萎縮が進行している	胃の萎縮が進行し、ピロリ菌が胃に生息できない状態
胃がん発生リスク	低い			高い



胃がん低リスク群

胃がん高リスク群

▼ 今後

▼ 今後

症状がない場合でも少なくとも5年以内に胃がん検診(胃バリウム検査や胃内視鏡検査)を受けましょう

ご自身で医療機関を受診し、医師と相談して定期的に胃内視鏡検査を受診しましょう

参考: 認定NPO法人日本胃がん予知・診断・治療研究機構『胃がんリスク検診(ABC検診)マニュアル 胃がんを予知して』南山堂,2009年

Q ピロリ菌の除菌療法を受けたので、定期的に胃がん検診を受けなくても大丈夫ですか？

**A 定期的に胃内視鏡検査を受けましょう。**

ピロリ菌を除菌することで胃がんの発生は低くなりますが、胃がんのリスクは続くため、定期的に胃内視鏡検査を受けることが重要になります。受診間隔は、医師と相談しましょう。